

令和2年12月4日
企画政策課

「慶應義塾大学 SFC 研究所」と「寒川町」が 豊かな未来都市の実現に向けて連携協定を締結



寒川駅から慶應義塾大学 SFC 研究所（以下、「慶應 SFC」という。）は約 7 km で、車で 10 分程度の近い距離にあります。慶應 SFC と寒川町は連携協定を締結し、この立地的条件も生かしながら「湘南発のより豊かな未来都市」の実現に向けて、密接に連携・協力してまいります。

＜目 的＞ 地域社会の発展
研究・教育活動の推進
人材の育成 など

＜連携協力事項＞ 未来都市の共同研究
（ライフスタイル、イノベーションモデル、テクノロジー活用等）
未来都市を担う人材育成
寒川町におけるプロジェクト
知的・人的及び物的資源の活用 など

また同時に、慶應 SFC の呼びかけのもと、寒川町・藤沢市・鎌倉市・茅ヶ崎市・逗子市が連携し、産官学金民連携で未来を共創する「湘南みらい都市研究機構」を発足します。寒川町も発足メンバーとして、湘南の未来づくりのために、湘南地域の皆さまと様々な活動に挑戦してまいります。

問い合わせ先

寒川町 企画部 企画政策課 課長 高橋陽一 ☎0467(74)1111 内線 230

湘南みらい都市に関する研究開発の連携協定書

寒川町及び学校法人慶應義塾 慶應義塾大学 SFC 研究所（以下、SFCという。）は、地域社会の発展と研究・教育活動の推進、人材の育成等に寄与するため、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 本協定は、最先端のテクノロジー、サイエンス、デザイン、ポリシーを連携させながら積極的に活用する「湘南発のより豊かな未来都市」の実現に向けて、密接な連携・協力のもと、湘南地域における研究開発の実学を協働で推進し、地域社会の発展、研究・教育活動の推進、人材の育成等に取り組むことを目的とする。

（連携協力事項）

第2条 前条の目的を達成するために、次の事項について連携し、協力をする。

- (1) 未来都市の共同研究に関する事項
- (2) 未来都市を担う人材育成に関する事項
- (3) 未来都市におけるライフスタイル、事業モデル、行政サービス、都市経営モデル、イノベーションモデル、先端テクノロジー活用等の研究開発に関する事項
- (4) 本協定の目的のもとで設置する研究コンソーシアムに関する事項
- (5) 寒川町における個別プロジェクトに関するSFCとの連携に関する事項
- (6) 知的、人的及び物的資源の活用に関する事項
- (7) その他目的を達成するために必要な事項

（体制）

第3条 寒川町及びSFCは、本協定の目的を達成するため、緊密な連携体制を構築するものとする。

（期間）

第4条 本協定の有効期間は、本協定締結日から2024年（令和6年）3月31日までとする。ただし、期間満了までに寒川町またはSFCのいずれかから相手方へ、本協定を継続する旨の申出と合意（書面または電子メール）があれば、同一内容でさらに3年間延長するものとし、以後も同様とする。

（その他）

第5条 本協定書に定めるもののほか、連携等の細目その他の事項については、寒川町とSFCが協議して別に定めるものとする。

本協定の証として本協定書2通を作成し、記名押印のうえ、各自その1通を保有する。

2020年（令和2年）12月4日

寒川町

寒川町長 木村 俊雄

学校法人慶應義塾

慶應義塾大学 SFC 研究所所長 玉村 雅敏

2020年12月4日

報道関係者各位

慶應義塾大学 SFC 研究所
藤沢市
鎌倉市
茅ヶ崎市
逗子市
寒川町**慶應義塾大学 SFC 研究所と藤沢市・鎌倉市・茅ヶ崎市・逗子市・寒川町が連携し、
産官学金民連携で未来を共創する『湘南みらい都市研究機構』を発足します**

慶應義塾大学 SFC 研究所（所長：玉村雅敏 以下、慶應 SFC）と、藤沢市（市長：鈴木恒夫）、鎌倉市（市長：松尾崇）、茅ヶ崎市（市長：佐藤光）、逗子市（市長：桐ヶ谷覚）、寒川町（町長：木村俊雄）（以下、5自治体）は、慶應 SFC の呼びかけのもと、「湘南みらい都市に関する研究開発の連携協定」を締結します。

2020年12月4日、慶應 SFC に「湘南みらい都市研究機構」を発足させ、連携協定のもとで5自治体が発足メンバーとして参画をし、他の自治体や産官学金民などの多様な主体を呼びかけ、その連携のもとで、産官学金民連携で未来を共創する研究開発に取り組みます。

1. 「湘南みらい都市に関する研究開発の連携協力協定」の締結

藤沢、鎌倉をはじめとする湘南地域では、1990年4月に慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)が開設されて以来、約30年にわたり、地域のさまざまな方々とともに、地域や文化を基盤に、未来を先導する各種の研究・教育・開発が行われてきました。その蓄積を踏まえ、慶應 SFC の呼びかけにより、慶應 SFC と5自治体とで「湘南みらい都市に関する研究開発の連携協力協定」を締結し、地域の生活と文化に密着した研究開発の実学をもとに、「湘南発のより豊かな未来都市」の実現へ向けて、さまざまな活動を協働で展開していきます。

この協定は、共通の目的と連携協力事項のもとで、慶應 SFC と5自治体それぞれとで締結をしました。

(目的)

この協定は、最先端のテクノロジー、サイエンス、デザイン、ポリシーを連携させながら積極的に活用する「湘南発のより豊かな未来都市」の実現に向けて、密接な連携・協力のもと、湘南の地域における研究開発の実学を協働で推進し、地域社会の発展、研究・教育活動の推進、人材の育成等に取り組むことを目的とします。

(連携協力事項)

前項の目的を達成するために、次の事項について連携し、協力します。

- (1) 未来都市の共同研究に関する事項
- (2) 未来都市を担う人材育成に関する事項
- (3) 未来都市におけるライフスタイル、事業モデル、行政サービス、都市経営モデル、イノベーションモデル、先端テクノロジー活用等の研究開発に関する事項
- (4) この協定の主旨のもとで設置する研究コンソーシアムに関する事項
- (5) 自治体における個別プロジェクトに対する慶應 SFC との連携に関する事項
- (6) 知的、人的及び物的資源の活用に関する事項
- (7) その他、目的を達成するために必要な事項

2. 「湘南みらい都市研究機構」について

慶應 SFC は、12月4日、研究コンソーシアムとして「湘南みらい都市研究機構」を設置し、協定のもとで、発足メンバーとしての藤沢市・鎌倉市・茅ヶ崎市・逗子市・寒川町による参画と協力を得て、各種の活動に取り組んでいきます。慶應 SFC とともに藤沢市と鎌倉市が幹事自治体の役割を務め、他の自治体や産官学金民などの多様な主体への呼びかけも行います。

この組織は、湘南の地域と生活に密着した研究開発の実学をもとに、「湘南発のより豊かな未来都市づくり」に取り組むもので、自治体・企業等の関係者、市民、慶應義塾大学の教員・大学院生・大学生、市内の学生・生徒等が研究スタッフとなり、湘南の未来に新機軸を創出するテーマを設定し、地域での実学を推

進する予定です。

その具体的なプロジェクトとして、これまでの湘南地域における研究開発の実績をもとに、地域 IoT のさらなる実践や、スマートシティやファブシティの展開、湘南での SDGs の追求、地域防災や健康長寿の社会システムづくりのさらなる推進、ワーケーションモデルの開発・推進などが想定されます。

3. 協定締結に際して

【藤沢市からのご挨拶】

SFC30 周年の節目の年に、新たな取組として「湘南みらい都市研究機構」が発足したことを地元自治体として大変嬉しく思っております。新型コロナウイルス感染症拡大が、人々の働き方、暮らし方に大きな変化をもたらし、デジタル化が加速しています。当市といたしましては、自然や文化を大切にしながら、テクノロジーの活用を進め、湘南らしい真に豊かなワーク&ライフスタイルを実現できるスマートシティを目指して、皆様とともに研究・実践してまいります。(藤沢市長 鈴木恒夫)

【鎌倉市からのご挨拶】

湘南みらい都市研究機構の発足にあたり、鎌倉市も参画させていただけることを非常に嬉しく感じています。新型コロナウイルスをきっかけに、新しい生活様式や急速なデジタル社会の進展など、我々を取り巻く環境、人の考え方や価値観が、今大きく変わろうとしています。この機構への参加を通じ、アカデミアとして 30 年にわたり湘南地域を牽引してきた SFC 研究所、そして近隣の自治体の皆様としっかりと手を携えることで、変革の時代を共に乗り越え、湘南地域の新たな価値と魅力の創造に鎌倉市としても貢献してまいります。(鎌倉市長 松尾崇)

【茅ヶ崎市からのご挨拶】

コロナ禍で人々の働き方やライフスタイルが大きく変化し、湘南地域に暮らすことが注目されている中で、この湘南地域で産官学民が共創することに意義があると感じています。連携協定に基づく「湘南みらい都市研究機構」の活動が、社会の変化に対応した新たな湘南地域の社会像の検討・実装へと展開し、この地域の活力の創出につながることを願っております。(茅ヶ崎市長 佐藤光)

【逗子市からのご挨拶】

行政が取り組む課題が複雑化、多様化していく中、本市においては、交通渋滞の解消やデジタル化の推進、ワーケーションの推進など、大学の知見を得て、取り組みたい課題も多い状況にあります。「湘南みらい都市研究機構」の発足により、慶應 SFC 並びに逗子市の相互に成果がもたらされ、更には、教員陣、学生といった豊かな人材と本市とで多様な関係が築かれ、人材の育成、学術研究の向上、地域の発展を実現していくことを期待しています。(逗子市長 桐ヶ谷寛)

【寒川町からのご挨拶】

寒川町では「つながる力で 新化するまち」をまちの将来像に掲げ、多様な主体とのつながりから生まれる相乗効果により、少子高齢化や人口減少、コロナ禍などの社会環境の変化を乗り越えていくことを目指しています。湘南みらい都市研究機構は、慶應義塾大学 SFC 研究所をはじめ、まさに多様な主体と連携し、湘南地域の発展等に大きく寄与するものと期待を膨らませています。寒川町も発足メンバーの一員として、湘南の未来づくりのために湘南地域の皆さまと挑戦してまいります。(寒川町長 木村俊雄)

【神奈川県知事応援メッセージ】

「湘南みらい都市研究機構」の発足を心から歓迎します。慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス (SFC) の 30 年に渡る取り組みを基礎に、市町村や産官学公民が密接に連携して協働研究を進めることで、「いのち輝く」神奈川の実現に向け、コロナ禍の中この湘南地域から新しい潮流が生まれ、大きく発展していくことを期待しています。(神奈川県知事 黒岩祐治)

【慶應 SFC からのご挨拶】

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス (SFC) は、1990 年の開設以来、湘南地域の一員として活動するとともに、湘南の皆さまに支えられ、おかげさまで、約 30 年にわたってさまざまな挑戦に取り組んでまいりました。

SFC は「未来を創る大学」として、その役割を果たすことを目指しています。そのためには、これからも、湘南の地域や文化を基盤に、さまざまな皆さまとともに試行錯誤と挑戦を続けることが大切と考え、SFC 開設 30 年の節目に、SFC 研究所に「湘南みらい都市研究機構」を発足させます。藤沢市・鎌倉市・茅ヶ崎市・

逗子市・寒川町をはじめとした、産官学金民などの多様な主体の連携・協力のもとで、湘南の地にて、未来を共創する研究開発に取り組んでいきます。

未知の難題が次々に現れる不安定な現代社会では、さまざまな知や力を結集し、深く、本質的に物事に取り組むことの社会的役割は過去よりも大きくなっています。国内外の多彩な研究者や専門家・実務家・学生たちが活動する SFC 研究所は、湘南の地域や皆さまとともに、これからも本質的な挑戦を続けていきます。皆さまのご理解ならびに、ご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

(慶應義塾大学 SFC 研究所所長 玉村雅敏)

【本件に関する問合せ先】

慶應義塾大学 SFC 研究所（玉村研究室）

TEL：(03) 4590-0444 担当：内山

E-Mail：shonan@sfc.keio.ac.jp

【配信元】

慶應義塾大学湘南藤沢事務室学術研究支援担当 E-mail：kri-pr@sfc.keio.ac.jp

TEL：0466-49-3436

FAX：0466-49-3594